

# 広島市立大学 広島平和研究所 研究フォーラム

共催：日本アフリカ学会中国四国支部

## 「千の丘の国」ルワンダ—虐殺の過去と共生の模索

### 第一講演 「ルワンダの光と闇—

### ジェノサイド後の国民統合と和解プロセスをめぐって」

**講師** 佐々木 和之 氏 (プロテスタント人文社会科学大学准教授)

鹿児島大学農学部卒業。コーネル大学国際農業・農村開発修士課程修了後、ブラッドフォード大学で博士号(平和学)を取得。1980年代から90年代に国際NGOの職員としてエチオピアで農村自立支援に従事。エチオピア在任の2000年にルワンダを訪問し、紛争の深い傷跡に衝撃を受ける。2005年から現地NGOと協力し、ルワンダ大虐殺後の和解プログラムを展開。2011年にプロテスタント人文・社会科学大学の教員となり、ルワンダ初の平和・紛争研究学科の設立に尽力。現在、研究学科長としてその発展に献身している。

#### 講演内容

本報告では、21年前にジェノサイドを経験したルワンダで進められてきた国民統合・和解政策の成果と限界について検討した後、多くの困難な課題に直面しながらも、ルワンダの人々が草の根レベルで続けてきた和解と共生の取り組みについて紹介する。報告の最後では、「光」と「闇」が交錯するジェノサイド後のルワンダの歩みから、私たちが学ぶべきことは何かを考える。

### 第二講演 「ルワンダのエスニシティ—

### ジェノサイドの歴史的背景を探る」

**講師** 鶴田 綾 氏 (中京大学国際教養学部講師)

千葉県出身。エディンバラ大学で博士号(アフリカ研究)を取得。2014年度より現職。研究分野は、国際政治史、アフリカ研究。特に1950年代および60年代のルワンダにおける民族関係や脱植民地化に関心を持つ。近著に「ルワンダにおける歴史認識と民族対立」(『国際政治』第180号、2015年)がある。

#### 講演内容

本報告では、ルワンダにおけるジェノサイドの歴史的背景を理解するため、植民地化以前の時代から植民地時代を経て1994年に至るまでに、トゥチ・フトゥというエスニックな区分がいかに構築され、暴力を伴う関係へと変化してきたかを振り返る。同時に、暴力に発展しないような可能性が過去に存在したことも指摘する。さらに、このような過去が、どのように複数の「正史」の中で語られてきたかを概観し、それらの問題点を明らかにしたい。

**討論者** 永井 均 (広島市立大学広島平和研究所准教授)  
田川 玄 (広島市立大学国際学部准教授)

**日時** 2015年11月17日(火) 17:30—19:30

**場所** 広島市立大学サテライトキャンパス セミナールーム2  
広島市中区大手町4-1-1 大手町平和ビル9階 (市役所本庁舎向い)

◇ 参加ご希望の方はお電話かファックス、又はEメールで下記へお申し込みください。(先着40名)

#### お申し込み・問い合わせ先

公立大学法人広島市立大学 広島平和研究所 (担当:野村)  
〒731-3194 広島市安佐南区大塚東3-4-1

TEL:(082) 830-1811 FAX:(082) 830-1812 E-mail: office-peace@peace.hiroshima-cu.ac.jp



「市役所前」電停・バス停から徒歩すぐ